

## ナマコ

首藤 静夫

先日、Hさんが「ルッツ」という海の珍味を紹介された。なんでも北海道の日本海に面したある地域で、海が荒れた翌朝に海底のものが巻き上げられてこの珍味は打ち上がるそうだ。面白いお話だった。

似た経験が僕の子供時代にもある。場所は九州の東海岸、珍味はナマコである。台風の時節には海が荒れることが多い。夜半、風の音とともに海鳴りが聞こえるその翌朝、村人は暗いうちに起きて浜辺に出る。いつもは目の前に白砂が広がる浜辺だが、こんな朝は海からの贈り物がぐるぐると打ち上がっている。海藻、流木などが目立つがたまに貴重品が上がる。一番がナマコだった。海藻にまつわりついて転がっている。多いときは三十分くらいでバケツ一杯になる。最初は青ナマコも採っていくが、途中から青は全部捨て赤マナコに集中する。赤でも小さいのは無視した。それほど採れるのは年に一、二回だ。隣近所も採りに出るのでお裾分けするまでもない。仕方なく、浜から離れて住む学校の先生宅に届けて珍しがられた。小さいうちからゴマすり上手だった。

ある年にはワタリガニ（ガザミ）が大量に打ち上がった。ガザミは大変な貴重品なので、むしろ大人が目の色を変えた。漁師たちも大きな竹籠を持ち出してきた。大人が奪い合って採る光景もそうだが、ガザミのツメや甲羅に色づくブルーの透明感忘れがたい。

東京の市場でもナマコやガザミはもちろんあるが、どこか貧弱な感じは否めない。加えて近年のナマコの値段の高いこと、暮れに市場でみたら中型のものが五、六個ポリ袋に入っていて四千円台、それも青。目を疑った。

かように懐かしい故郷の浜辺だが、たまに墓参に帰っても浜に行くことはない。十年以上前から浜辺は見渡す限り太陽光パネルに覆い尽くされ海面は遠ざかった。元々が角栄時代の新産業都市計画の予定地だったので浜辺は工業用地になっていた。待てどもこない工場の代わりに太陽光パネルのオンパレードになった。嗚呼！